介護保険料の大幅値上げストップを！

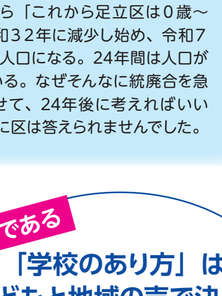
10期介護保険料値上げ案（基準額の中間報告から試算）

今の保険料 月額	今の保険料 年金が出るたびに引き落とされる額	住民税	年金所得額	段階		値上げ案 月額 最大で	値上げ案 年金が出るたびに引き落とされる額 最大で
12830	25660	本人課税	520万円未満	10		14640	29280
11480	22960	本人課税	420万円未満	9		13100	26200
10130	20260	本人課税	320万円未満	8		11560	23120
8780	17560	本人課税	210万円未満	7		10020	20040
7700	15400	本人課税	120万円未満	6		8780	17560
6750	13500	本人非課税の課税世帯	826500円以上	5	基準額	7700	15400
5880	11760	本人非課税の課税世帯	826500円以下	4		6710	13420
4630	9260	非課税世帯	120万円超	3		5280	10560
3280	6560	非課税世帯	120万円以下	2		3740	7480
1930	3860	非課税世帯	生活保護世帯など	1		2200	4410

※今後所得段階の区分など変更があり得るため「今の仕組みのまま値上げした場合の保険料」を試算（一けた台は四捨五入）。※第11段階以降は省略
※世帯非課税の場合は、軽減申請で第1～4段階の保険料に下がる仕組みあり

介護保険料は現在も23区で4番目に高いのに、10月に発表された「第10期介護保険事業計画案（中間報告）」では、来年4月から基準額を最大950円値上げし、7700円にする案が示されました。

介護保険料は給付費の半分を保険料で賄います。昨年度は給付を多く見積もった結果、介護保険会計は約27億円もあまり、国などに約17億6千万円を返還。区の法定負担分約6億円を一般会計に戻す一方で、65歳以上の方が払った保険料の余り約5億2千万円は保険者に返還せず、給付準備基金に積み立てました。


はたの昭彦区議

区の剰余分の高齢者施策への活用を求めましたが、区は拒否。しかも決算審議では、年齢に関係なく参加できるウォーキング教室等の区の事業にも、保険料収入を使っていたことが共産党の追及で明らかになりました。介護保険料は値上げではなく値下げすべきです。

寄せられた声

- ただでさえ生活が厳しい中、値上げは高齢者にとって大きな問題です。人生を生き生きと送るためにも、値下げを切に願います。
- 年金で満足に生活できないのに、値上げされたら生活していけません。値上げ反対です！値下げをお願いします。
- 年金収入しかないのに天引きされると暗い気持ちになる。節約も限界です。不安で病気になりそうです。

最初から子どもや地域の声は聞かない
「意見聴取はアリバイ作り」の学校統廃合

現在、足立区の学校統廃合計画は、過去に例のない速度で進め、子どもや地域住民が怒り声を上げ続け、3つの学校統廃合ストップの陳情と署名（区議会あて・教育委員会あて）が合計6024筆も集まっています。しかし住民の声を聞かない区の姿勢は重大な問題です。

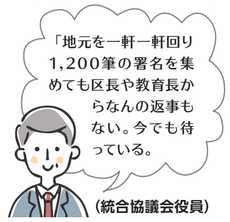
「子どもの意見を聞くかどうか検討」が決まったのに一切無視し、「決まっていない」と強弁

竹の塚中と渋江中の統合協議会で「子どもの意見を聞くべき」との要望が出され、次回の協議会で子どもの意見を聞くかどうかの検討することが決まりましたが、区はその後の文教委員会で「我々として認識はなく、会長からも話を聞いていない」と驚きの答弁でした。傍聴者も愕然とし、「えー！」と委員会室がざわめきました。区の担当者も、協議会の司会をし、内容を知っているのに事実をゆがめることは許せません。

「子どもが増えつづけ、減るのは24年後、いま統廃合するのは逆行している」の質問に答えられない

住民説明会で参加者から「これから足立区は0歳～14歳の人口は増え続け令和32年に減少し始め、令和7年（昨年）と同じくらいの人口になる。24年間は人口が増え続けると区は認めている。なぜそんなに統廃合を急ぐの？今の学校を存続させて、24年後に考えればいいのではないか。」との質問に区は答えられませんでした。

統合協議会での委員からの意見



（統合協議会役員）

たった30分の質問タイムで打ち切ろうとする「住民説明会」

花畑地域の、住民説明では、①小学校の統廃合計画②中学校の統廃合計画③花畑第一小と統廃合予定の中学校の「施設一体型」の3つの説明が同時に行われました。

質疑応答時間がわずか30分で参加者からは「本来はこれほど重要なことは1つずつ説明会を開くべきこと」の声が。

質問できず次々と手が上がり待っている方がいても「1時間を予定していますので」と区が打ち切ろうとする姿勢です。地域住民が怒りの声をあげました。



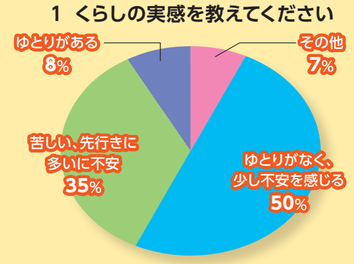
ぬかが和子区議

ご意見・ご要望・くらしの相談は区議団へ

区議団 Tel.03-3880-5770 Fax.03-3880-5682
メールはこちら
共産党足立区議団



85%が「ゆとりがない」「苦しい」



第26回区民アンケートに2000近い声

今年の夏に懇談した40以上の団体との要望、2000人近い「区民アンケート回答」の声をもとに、9月2日に新年度の予算編成要望書を区長に提出しました。

同時に、来年度では間に合わない急を要するものを緊急要望として8月に区長に提出しました。代表質問・決算審議等を通じて、要望が次々と前進・実現することが、明らかになりました。

公園・保育園 学校プールなど 猛暑対策が前進

気候危機が進む中、夏は暑さ指数31を越えると、外に出ることもできず、こどもの公園・保育園・学校プールなど従来の対応からの改善が必要であり積極提案し、前進しました。

公園 遊具は高温で触ることも出来ず、滑り台は70度近くに達します。杉並区の善福寺公園の例を示し、区として滑り台などの大型遊具の上に10枚のタープ（大型の日よけ・雨除け）を張って日よけをつくることを求めたところ、区が杉並区の公園の調査を行い、決算委員会で「足立区でもできる場所、遊具などを検討。来年度一カ所でもできるか検討したい」と答弁。

保育園 「例えばプールの上に大型のタープを設置すれば、暑さ指数は大きく下る」と支援を求めました。区は補正予算で都補助を活用し「私立園の改善支援」を表明したものの公立園の対策には後ろ向きでした。「公立園は老朽化し廊下にエアコンがない。屋外にも出られず園児は逃げ場がない」と公立園の改善も求め、「実情を聞き予算をつける」ことになりました。

学校プール 豊島区の例を示し学校プール全体への日よけを提案し前進しました。

「重度障がいでも運動したい」願いを届け 直ちに改善

総合スポーツセンターで月に1回開催する「ポッチャ広場」は、重症心身障がい児者にとって、貴重な体験・楽しみの場となっていますが、駐車場の確保が必須です。日曜開催で他団体の行事などと重なる場合も多く、満車で車が停められず参加をあきらめ、やむなく帰ることがあるそうです。駐車場の確保・改善を求め、区もすぐに「障がい者用駐車スペースを増台」するとともに、「障がい者の予約方法の工夫」を約束してくれました。

都バスの乗車拒否問題

都バス（池袋一西新井）で、西新井本町の高齢者からは「手押し車の乗車拒否」、障がい者からは「降車拒否」にあった話を伺い、区から都に改善を働きかけるよう求めました。区は早速、都交通局に対し「利用者への配慮」を求めてくれました。

日本共産党 足立区議団ニュース
発行会派 日本共産党足立区議団
足立区中央本町1-17-1 足立区役所内
発行責任者 ぬかが和子
編集責任者 小林ともよ

物価高騰 事業者の声をとどけ実現へ

保育・介護・障害事業者への物価高騰支援

福祉分野は、「公定価格」で収入が限られ、値上げ（価格転嫁）ができません。区は、上半期分しか支援を表明しておらず、今年度下半期の支援を強く求めました。決算委員会で「おっしゃる通り、ガソリン代・食費など物価の上昇で上半期よりも上振れしているので検討」と答弁し前進しました。

資材不足や価格高騰で公共工事を受けられない！

入札不調が相次いでいます。建設関連事業者からの「年度内での工事が困難になっている。材料が入ってこないと工程すら立てられず入札に応じられない。」などの実態を届け、工期の延長・資材価格高騰への対応・単価の見直しなどを求めました。副区長は「よく分かる。発注から3か月たつと価格が変わっている。単価改定が追い付かない中、設計変更や工期の延長・中断など、柔軟に対応したい」と回答しました。

障がい者 紙おむつの単価アップ検討

障がい者団体の声をうけ、代表質問で「物価が上がっているのに19年も助成額が上がっていない」とつきつけて改善を求めました。区も「実質的な負担増になっているので、影響を把握し、増額を視野に検討」と答弁しました。

精神障害者保健福祉手帳の更新問題

2年毎の更新は、期限ギレの3か月前からしか受け付けず、交付までに3か月以上かかり、期限切れでサービスが受けられなくなることへの改善を求め続けてきました。要望を受けて保健所長などが9月30日に東京都に出向き強く要望をしました。

障がい者の保護雇用の単価改善

あいのわ福祉会の要望が実現しました。


ぬかが和子区議

1512億円に減ると言っていた ためこんだつみたて金1830億円

タワマン再開発への税投入よりもくらしをまもり 安心のまちづくりを!

第３回定例会の決算審議が行われ、令和7年度は過去最高の132億円の黒字。1817億円から1512億円に減るとしていたつみたて基金も逆に増えました。

足立区内では5か所の再開発事業、10棟以上のタワーマンション計画が同時に進行しています。区は「大型開発などが高額所得者の増加につながっているものと考えている」と答弁しましたが、今後進めようとしているマンション建設費への税投入を伴う再開発事業ではないことを認めました。北千住駅東口北街区再開発では100億円以上の税金が投入されます。北千住西口再開発では足立区のランドマークともいえる飲み屋横丁が無くなりかねません。市街地再開発事業は3分の1地権者が反対でも強行でき、事業者は莫大な利益を得ることになります。

こんなにあるタワマンの弊害



風害

綾瀬駅東口のタワマン建設で発生した風害で「高齢者が転倒」「傘をさすこともできない」などの声が続出しています。

地価や家賃の高騰

タワマンは投機目的の購入者が多いため、地価高騰の要因に。

タワマン再開発をすすめる千住地域では、「来年度から家賃を１万円値上げすると大家さんから言われている。今の年金では払えない。」と相談が急増しています。

急激な人口増

千住大川端のエリアでは、４棟のタワーマンションが建設予定。子どもの人口増加が想定し、千寿第八小は教室が不足するためせきや保育園を追い出し、４教室分を確保する計画。



災害時のリスク増

停電によるエレベーターの停止、断水・トイレなど、多くの生活インフラが停止。「階段での昇降」は高齢者や子ども、けが人にとっては大きな負担となり、生活孤立のリスクが高いことを区も認めました。



災害・インフラ

いつ起きてもおかしくない地震や大規模水害に沿なえ「避難所環境の充実」「在宅避難の簡易トイレや備蓄品支援」「内水氾濫対策」など誰も取り残さない対策を進めます。

区内中小・零細事業者支援急げ

区が実施した区に期待する支援「事業者アンケート」では「用途を問わず何にでも使える補助金」が４年連続1位です。この声に応え幅広い中小事業者支援の実施。差別的なPayPay商品券ではなく、誰もが利用できる消費喚起策を目指します。

青切符より自転車専用道を!

総延長146㎞の自転車専用道を整備する足立区自転車ネットワーク計画のうち整備済はわずか5.9キロです。「このままでは整備に50年以上かかる」と決算委員会で迫りました。安全な自転車走行空間の整備こそ最優先で進めます。



保育園待機児童 全国ワースト2位

今年４月時点の待機児童は全国ワースト２位の106人、第５希望まで書いてどこにも入れない第一次不承諾は1207人。

区は既存園のつめこみで「解消」と言いますが、子どもへの環境悪化が心配です。保育園の環境づくりを優先します。

誰もが安心して乗れる公共交通を

バス路線の廃止、減便が相次ぎ、区は代替え策として「地域内交通導入サポート制度」で、デマンドタクシー等の導入を10地域で進めると表明、しかし予算は導入予定の自動運転バスの10分の1に過ぎず、運営は住民ボランティアまかせです。日本共産党は地域の声を生かし、予算も増やし行政の責任で地域交通充実を進めます。

住み続けられる住宅

安心してこれからも区内に住み続けられるように公営住宅の増設を目指します。他区で実施している子育て世帯・若者世帯に定住のための補助金を支給。公営住宅（都営住宅・区営住宅）に落選した区民に家賃補助制度をつくります。



日本共産党区議団はお金の使い方をきりかえ 安心して住み続けられる足立区をめざします! 日本共産党